

10月21日 木の温もりやよさを学んだ木育教育

遠く飛騨から講師を招いて、1年生を対象に木育教育が行われました。北中の建設に携わった建築会社の協力を得て、実際に北中校舎に使われている木に振れながら、そのぬくもりやよさを学びました。

北中の校舎のどこに、どのような木が使われているか。その木にはどんな特徴があるのかなど、生徒たちは具体的な説明を受けました。自分たちの学校生活を温かく見守っている木ですが、普段はそれを意識することなく生活している生徒たち。この日ばかりは、北中に使われている木を改めて考えることになったようです。



木の手触りを確かめる生徒たち

料を両方触りながら、その堅さを実感しました。

その他にも、堅さや色が異なるいくつかの木材サンプルを手に取り、紙やすりで磨くなどして、その特徴を学びました。

この学習を通して、木がふんだんに取り入れられている瑞浪北中学校の素晴らしさを一層感じることができました。

実際に用意してもらった木に触れ、その手触りや質感を確かめました。

たとえば、北中の教室や廊下の床に使われている木材は杉です。しかし、杉をそのまま床に使うと傷がつきやすいので、およそ2分の1の体積まで圧縮加工され硬くなった材料が床に使われているそうです。その圧縮前と圧縮後の材



木をやすりで削る生徒たち